**棚田と山腹用水路**

(要旨)

高千穂の棚田では、夏には瑞々しい緑、秋には黄金色に輝きます。1800ヘクタールを超える棚田は住民が500キロ以上完成させ維持してきました用水路から供給されたものです。地元の伝統的な農業を守り育んできた高千穂郷・椎葉山の険しい山間地域が、世界農業遺産として認定されました。※

=========================

高千穂は、非常に険しい山間部にある高千穂郷・椎葉山地域の中に位置し、農業に不可欠な水の不足と長い間戦ってきました。明治時代（1868-1912）まで、村人の多くは、ヒエを栽培し、様々な雑穀を常食としてきました。しかし、豊かな資源である米に対する人々の思いは強く、村人は団結して、数十キロ離れたより標高が高い山の奥地に水源を求めることを決め、手作業で山の斜面に用水路を建設しました。現在、この山腹用水路は、総延長500キロに及び、1800ヘクタールを越す棚田が造成されています。

現在においても、高千穂の人々は、山間地域の厳しい環境のもと、共に手をかけてこの農業遺産を受け継いでいます。先人たちが行ってきたように、100年以上たつ用水路を、人々は共に手をかけて大切に維持し、田んぼに苗を植え、稲を刈り取ります。米はもとより、白菜やタバコなど他の作物の畑にも恵みを与えています。所有権はなく、これらの田畑の維持は、近所同士の信頼に依っています。

※2015年、高千穂・椎葉山地域は、世界農業遺産に認定されました。これは、世界農業遺産を立ち上げた国際連合農業機関によるもので、この地域独特の農業システムと文化の推進と維持を求め、これら貴重な資産の次世代への継承が認められたことを意味しています。